

事務局 記載欄	開設 年度	2015年度	科目 区分	導入科目	科目 コード	1234250	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = グローバル化と私たちの社会 ('15) = (R)

英文名 = [ Globalisation and Our Society ('15) ]

[主任講師 (現職名) : 原田 順子 (放送大学教授) ]

[主任講師 (現職名) : 北川 由紀彦 (放送大学准教授) ]

【本学担当専任教員 : 】

#### 講義概要

ヒト、モノ、カネ、情報が容易に国境を越えて移動するグローバリゼーションという現象は、日本だけでなく世界全体に大きな影響を及ぼし始めている。日本一国だけグローバリゼーションに規制を課すことは不可能な状況であるので、グローバリゼーションに対してどのように対処すべきか考えなければならない時が来ている。グローバリゼーションは経済だけでなくあらゆる分野に変化を求めている。そこで、手始めに、社会と産業コースに所属する教員全員でこの問題を議論する科目を開設する。

#### 授業の目標

グローバリゼーション(グローバル化)という現象が、広い視野に立って考えなければならない現象であるということを理解する。また、そのために、基礎的な学習の段階から、自分が最も関心のある専門分野だけでなく、隣接する分野にも関心を持ち、学習の幅を広げる。

#### 履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	グローバル化とは何か ～学融合の試み～	全体を通じて学習する対象について受講生が全体的なイメージを共有できるように試みる。まず、「グローバル化」と私たちの「社会」「産業」をどう捉えるのか、また、それらに焦点を当てる意義について説明する。さらに、グローバル化と経済世界の動きに関する光と影を考える。  【キーワード】 グローバル化、国民国家、多国籍企業、ワシントン・コンセンサス、新自由主義	坂井 素思 (放送大学教授) 原田 順子 (放送大学教授)	高木 保興 (東京大学名誉教授) 高橋 和夫 (放送大学名誉教授、国際政治学者) 原田 順子 (放送大学教授) 齋藤 正章 (放送大学准教授) 北川 由紀彦 (放送大学准教授)
2	都市社会の構造的 分化	グローバル化とともに、日本の都市社会は、どのような構造的分化を示すのだろうか。構造的分化を、垂直方向の分化、つまり格差の拡大を導く分化と、水平方向の分化、つまり異質性の増大をもたらす分化の2つの分化に区分する時、この2つの分化はどのように絡まり合いながら進展してゆくのだろうか。これらの点について、分かりやすく解説する。  【キーワード】 格差の拡大、異質性の増大、垂直的分化、水平的分化、垂直軸への転回	森岡 清志 (放送大学特任教授)	森岡 清志 (放送大学特任教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
3	グローバル化と都市の変容	<p>グローバル化が都市に与える影響について、都市間競争と開発をめぐる問題に注目しながら論じる。後半では、ローカルな都市においてグローバルな諸主体の活動が展開されていることの具体的な事例として、2005年の愛知万博の計画・実施過程に関する研究を紹介する。</p> <p>【キーワード】 世界都市、都市間競争、開発イデオロギー</p>	北川 由紀彦 (放送大学准教授)	北川 由紀彦 (放送大学准教授)
4	グローバル化する企業活動	<p>経済活動のグローバル化という世界的な潮流のなか、日本企業のグローバル化も進展してきた。海外直接投資、サプライチェーンの構築等、世界経済の相互依存は深化している。こうした背景と併せて、多国籍企業、その組織類型、日系多国籍企業の人材面の課題等を紹介・解説する。</p> <p>【キーワード】 海外直接投資、サプライチェーン、トランスナショナル経営、グローバル人材</p>	原田 順子 (放送大学教授)	原田 順子 (放送大学教授)
5	会計基準のグローバル化	<p>企業経営が国際化すると、進出した国のルールに従わなくてはならない。会計基準もそのルールの1つである。しかし、会計基準が他のルールと異なるのは企業業績や財政状態を測定するという点にある。比較可能性や透明性を担保するために1組の高品質な会計基準、すなわち、国際会計基準が必要となる。本講義では、その設定プロセスと各国における適用状況について解説する。</p> <p>【キーワード】 国際会計基準、国際財務報告基準(IFRS)、国際会計基準審議会(IASB)、米国財務会計基準審議会(FASB)、企業会計基準委員会、コンバージェンス、エンドースメント</p>	齋藤 正章 (放送大学准教授)	齋藤 正章 (放送大学准教授)
6	グローバリゼーションが農業に及ぼす影響	<p>農業保護の問題は、TPPの賛否を巡り世論が二分されるほど関心を集めている。グローバル化した今日、生物多様性に富み生活の場を提供する水田農業をどう再生するのか。また、果樹・野菜等競争力を持つ分野をどう成長させるか。農業再生を巡る議論を整理し、私たちの求める農業像を探る。</p> <p>【キーワード】 貿易自由化、農産物の国際競争力、TPP、国益と富国</p>	河合 明宣 (放送大学教授)	河合 明宣 (放送大学教授)
7	グローバリゼーションが環境に及ぼす影響	<p>かつて環境問題は地域の問題であった。しかし、現代は地球温暖化に伴う気候変動、生物多様性の減少など、環境問題そのものがグローバル化した。また、経済のグローバル化は、他の地域の環境問題が別の地域に大きな影響を及ぼすようになった。エコロジカルフットプリント、バーチャルウォーターなど、様々な指標からグローバリゼーションが環境に及ぼす影響を考える。</p> <p>【キーワード】 気候変動、生物多様性、エコロジカルフットプリント、バーチャルウォーター、バラスト水</p>	岡田 光正 (放送大学副学長)	岡田 光正 (放送大学副学長)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
8	環境共生建築の実現に向けて ーグローバル化の光と影ー	<p>建築は、もともと地域の気候・風土に根ざしたものであり、同時に地域文化の形成を担ってきた。今日の地球環境時代において、地域性と歴史性は重要なキーワードである。しかし、建築材料の生産、輸送をはじめとして、国際建築様式、設計・計画手法、ライフスタイル等グローバル化の波が押し寄せている。環境負荷の小さい快適で健康的な環境共生建築を実現する上でのグローバル化の光と影を考える。</p> <p>【キーワード】 地球環境、環境共生建築、バナキュラー建築、国際建築様式、気候・風土、グローカル、IT技術、地産地消、ライフスタイル</p>	梅干野 晁 (放送大学客員教授、東京工業大学名誉教授)	梅干野 晁 (放送大学客員教授、東京工業大学名誉教授)
9	グローバリゼーションが経済法に及ぼす影響	<p>経済の国際化が国内の競争環境にどのような変化を生じさせ、どのような法制度の変化や企業行動の変化を生じさせたのかを、日本の戦後の経済変化との関係で歴史的に検討する。1960年代の貿易自由化、資本自由化と高度成長期の競争環境、オイルショックを経て安定成長から低成長期、20世紀後半の競争環境の変化、高齢化社会に突入した21世紀の競争環境の変化と経済の国際化の関係を見る。</p> <p>【キーワード】 貿易自由化、資本自由化、産業政策、GATT、WTO、貿易摩擦、規制緩和、ビッグバン、高齢化社会</p>	來生 新 (放送大学長)	來生 新 (放送大学長)
10	グローバリゼーションと労働問題 ～外国人労働者をめぐる法律問題～	<p>経済のグローバリゼーションにともなう大量の労働移動により多様な法的な紛争が発生している。わが国では、外国人労働者の受け入れにより、出入国管理政策が変化するとともに、研修・雇用・社会保障をめぐる裁判が提起され、一定の法理が形成されている。それらを素材にどうしたら円滑かつ友好的に外国人労働者を受け入れることができるかを考える。</p> <p>【キーワード】 労働移動、出入国管理政策、外国人労働者</p>	道幸 哲也 (北海道大学名誉教授)	道幸 哲也 (北海道大学名誉教授)
11	グローバル経済化と日本の衰退	<p>グローバル経済が進展する中で、日本経済の停滞が同時に存在している。この中で、製造業衰退論、人口減少衰退論をはじめとする日本衰退論が台頭してきている。日本における「衰退」は存在するのか、「衰退現象」とは何なのか、これらが「グローバル経済化」とどのような関係にあるのか、これらの点について、この講義では考察していく。</p> <p>【キーワード】 グローバル経済、産業構造の変化、高齢化、経済衰退</p>	坂井 素思 (放送大学教授)	坂井 素思 (放送大学教授)
12	メディアと国際政治	<p>国境を越えて流れる情報は、国境線の内部を守備範囲とする主権国家の力を溶解させつつある。まず衛星テレビの普及が、国家の情報管理を難しくした。そしてインターネットが引き起こした新しい情報の流れが、その過程を加速した。そうした情報環境の変化が、国際政治に大きな影響を与えつつある。2011年に始まった中東における民主化運動などを例に取りながら、メディアと国際政治の関連を考える。</p> <p>【キーワード】 主権国家、ニューメディア、衛星テレビ、アラブの春</p>	高橋 和夫 (放送大学名誉教授、国際政治学者)	高橋 和夫 (放送大学名誉教授、国際政治学者)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
13	「国土開発」とグローバリゼーション	<p>近代日本の「開発」は、強迫神経症的に「対外膨張」を伴うものとなった。「内なるフロンティア」ではなく「外なるフロンティア」にひたすら目がむけられたのである。そして「国内開発」も「植民地」経営も、いずれもジャパンスタンドがグローバルスタンダードに優先した。戦後の「総合開発計画」にも、戦前の色彩は濃厚に残っていた。今こそ「開発」の発想の転換をめざして、新たな人材育成が望まれる。</p> <p><b>【キーワード】</b> 帝国主義、植民地経営、国土計画、都市計画、原敬、後藤新平、内なるフロンティア、外なるフロンティア、全国総合開発計画、人材育成</p>	御厨 貴 (放送大学客員教授)	御厨 貴 (放送大学客員教授)
14	グローバルな正義論	<p>グローバル化が私たちに与える影響に、社会科学がいかなる貢献をすべきかを考える。近代国家システムの中で確立されてきた正義の概念について把握し、それがグローバル化によってどのような挑戦を受けているかを理解する。そのような挑戦に内在する問題性を検討し、グローバル化の文脈の中で、そうした問題性にいかんして対処すべきなのかを考える。</p> <p><b>【キーワード】</b> 主権国家、正戦論、社会正義、人道的介入、グローバルな分配的正義、コスモポリタンな倫理、正義の義務と人道の義務、感情教育</p>	山岡 龍一 (放送大学教授)	山岡 龍一 (放送大学教授)
15	グローバリゼーションの光と影	<p>1章から14章で、グローバリゼーションが私たちの社会にさまざまな影響を及ぼすことが指摘された。この章では、社会全体を見渡してグローバリゼーションの影響を整理するとともに、今後の展望についても議論のたたき台を提供してみたい。</p> <p><b>【キーワード】</b> グローバリゼーション</p>	高木 保興 (東京大学名誉教授)	高木 保興 (東京大学名誉教授) 高橋 和夫 (放送大学名誉教授、国際政治学者) 原田 順子 (放送大学教授) 齋藤 正章 (放送大学准教授) 北川 由紀彦 (放送大学准教授)